

一般社団法人江津青年会議所

かわる

## 変～家鴨になるな、野鴨たれ～

### 所 信

一般社団法人江津青年会議所

2025年度 理事長 濱崎 麻弥

はじめに

野鴨は、餌を求めて渡る渡り鳥です。あるところに、野鴨に餌をあげるおじいさんがいました。野鴨は思います。「ここにいて餌をもらい続けられるなら、渡る必要はない」と。

やがておじいさんは、亡くなります。餌を貰えなくなった野鴨は家鴨（アヒル）のように肥え、もう飛び立てなくなっていました。

これは、キルケゴールという哲学者が残した「馴らされた鴨」という話です。

この話に出てくるおじいさんのように、この江津青年会議所は会員ひとり一人を馴らすような存在には決してなりたくない。馴らすというのは、本人の思い・決意・方向性を違う方向性へ変えてしまうこと。

この話に出てくる家鴨のように、「このままでいいか」と思う人にはなりたくない。「このままでいいか」とは、変化を避け、自分の方向性を貫けず他人の思いに流されること。

メンバーが、江津青年会議所を起点に外へ向かって羽ばたいて活躍していく人であってほしい。そういう願いを込めてスローガンとしています。

なぜ、外へ出ていくのか。それは、長い間続く問題を本気で変えていきたいから。そして、自分の信じた問題解決へトライして、たくさん失敗してほしいから。私は、ここに所属するすべての人にどんどん失敗をしてほしい。「失敗をして良い」とう組織が青年会議所の強みであるからです。

家鴨の状態は、失敗を回避させられ続けた結果の姿です。

ここでいう失敗は失敗ありきで挑むという意味では決してありません。本気で挑むことが前提です。そして、本気で挑んだ先の失敗は必ず成長へつながります。家の中（青年会議所内）で転んでも痛くないけど、外（地域）で転ぶととても痛い。この痛みが財産になると信じています。そして、失敗しても懸命に何度もトライしていく姿が、人を巻き込みます。それが、地域をより良くしていくリーダーの姿です。

この1年からは、良い失敗をしていくためにどうするかのを会議を始めましょう。思いが

どう形になるかわからないなら、議論を尽くす前にまずやってみましょう。

課題は山積し、いまだに自分の大切な町に自分や大切な人たちが住めなくなりうるリスクをはらんでいます。

島根県は、中国地方で最も所得が低い県です。全国的に見ても36位という水準で、夫婦共働きの家庭も多くあります。若者も就職時、県外へ出ていくのは職業選択の少なさや収入面を理由にしています。江津青年会議所に入会できる20～40歳も地域年齢別人口調査を見ると総人口の16%と少ないことが分かります。

その問題を解決するために江津市は創造力特区として、創業支援や中高生の「やってみたい」を実現していく取り組みなど、若者がこの町でチャレンジすることを応援してくれる土壌が築かれています。江津青年会議所もこの町にとって貴重な20代から40代のチャレンジを応援し、たくさんの失敗を経験できる機会を提供しています。

子どもたちの教育面では、都道府県別1,000人当たりの不登校生徒数を見ると小学校3位、中学校9位と、何らかの理由で学校へ行くことができない子どもも多くいます。一方、高校などは生徒数を確保するため「教育魅力化」という先進的な取り組みで全国モデルとなっています。義務教育段階では、子どもが少ないことから学校も小規模校が多くありますが、子ども一人当たり手厚い教育がなされているともいえます。

このように課題はありながらも、それをチャンスととらえ、さまざまな取り組みをしている江津市。江津青年会議所もこの動きに寄与できる取り組みをして参ります。

私は、江津青年会議所に入会してこの組織や町が大切な存在になりました。未熟なところをたくさん教えてくれて、見捨てずに、できるようになるまで付き合ってくれる先輩や仲間がいたからです。今年度は、小さくまとまらず外へ向かってたくさんチャレンジし、たくさん失敗を経験し、みんなで一緒に成長していく1年にしていきましょう。その積み重ねが、明るい豊かな町へとつながっていきます。

## **事務局×拡大 ～拡大意識を変え、みんなで仲間を増やそう・会議運営と拡大リーダー事務局長～**

様々な役の経験を重ねたメンバーを事務局長とします。その経験を生かし、次の2点に邁進します。

1点目：事務局や理事会の運営責任者として、専務理事と共に会を支える役目を持ちます。新しい運用を調査・実施し、次の世代が運営しやすい会議の場づくりを試みていきます。

2点目：事務局と同時進行で、拡大推進のリーダーを担います。

江津青年会議所として拡大は急務かつ重要なことです。今年の拡大の目標数は8名で純

増という形を目指します。昨今の江津 JC では、掲げた拡大目標を達成できていません。メンバーは拡大へ苦手意識が強くあります。そのため、確実に達成できる目標を掲げ、「全員でできる拡大」を達成します。

この町をひとりで明るく豊かにしていくことは、決してできません。町に点在する青年を江津青年会議所へ迎え、仲間になり実現していきます。

#### **総務×育成委員会 ～外へ向かう後押しをする LOM 内 1 番の応援団～**

総務系の委員会は LOM の顔です。ムードメーカーです。総務系の委員会が躍進すればするほど、LOM は活気づいていくと私は考えています。

日本青年会議所、中国地区協議会、島根ブロック協議会の主催する各事業の学びをわかりやすく会員に伝え、会員が自らの成長を自分で選択するきっかけを提供します。また、メンバーとコミュニケーションが多い委員会のため個人の状態を把握でき、各委員会どうしのつなぎ目となる委員会でもあります。

その委員会の特性を生かし、今年度「育成」についても実施します。育成も各委員会や会全体で取り組む事項です。総務育成委員会は、各委員会へ「すべては育成につながる機会」という発破掛けをしていきます。そして、日々の活動を自信に変え、外へ出ていく背中を押すのが総務育成委員会の役目です。

#### **青少年×地域のおとな委員会 ～地域の頼れる第三者・子どものやりたいこと応援隊～**

子どもが健やかに育つためには養育者からの愛情を受け、好奇心を発揮していく成長段階があります。そして、友達ができ、自立心ができ、やりたいことを見つけ、それを目指していく。それが理想だとも思います。

しかし、家庭環境や自身の特性でやりたいことにハードルがある子どもたちもいます。養育者だけでそれを背負うことが難しいときもあります。

そのときに、家族でも学校でもない地域の大人の存在が子どもたちの可能性を広げるために必要になってきます。子どもにとって、第三者が関わることは不思議な体験となると思います。けれど、江津で出会った大人が自分のために一生懸命になってくれたこと、やりたかったことが実現していき、その過程でわくわくした体験や一緒に失敗したり、試行錯誤したりした経験は、きっと彼らの心に残ります。そして、その思い出はいつか彼らが大人になったときに「ふるさと」を思い出す種まきとなってくれると信じています。

#### **祭×シティリペア委員会 ～表現を応援し、市民全員でつくりあげる江の川祭～**

江の川祭をつくる人も遊びに来る人も垣根をなくすこと、これが市民総参加型の祭りです。

ポートランドにシティリペア運動というものがあります。同時多発的に道路へペインティングやコミュニティガーデンの手入れを楽しそうにしていたら、いつの間にか行きかう

人々もそれに巻き込まれて、自分の住む町への主体的な関りを生む動きが生まれていき、やがて行政を巻き込む一大まちづくりフェスティバルになったというものです。

江の川祭でも様々な表現の場があります。子どもから大人までがさまざまな形で表現をし、この町を盛り上げようとエネルギーを注ぎます。江津市にとってそのエネルギーの発揮は1年に1度無くてはならないものです。そして、パレットごうつを拠点に盛り上がりを見せています。今年は、シティリペアの取り組みのように同時多発的に表現の場を用意し誰もが観客から表現者になれる、誰もが祭の作り手になれる江の川祭を作り上げていきます。

### 地域連携室～結び目をつくるネットワーク・変形自在のチーム～

この地域連携室は上下の無い集合体です。そのため予め「長」となるものを設置せず、その時々でリーダーが変わる特性をもちます。リーダーはミッションをクリアしたらそのチームをすぐ解散し、また次のミッションへ向かい、適したチームを作ります。

今年度のミッションは地域から求められる事業へ参画し、江津青年会議所のネットワークをより強化すること、あるいは江津青年会議所を認知してもらうことです。

このチームのあり方が、次代の社会課題を解決していくために適した新たな組織のあり方と仮定し1年間を実施していきます。

おわりに

#### 「JCのためにJCをするな」

私は、委員長の時に監事が講評で話されているこの言葉の意味が分かりませんでした。今になってこの言葉の意味が分かってきました。

当時、私は育成の職務をいただいていた。ある例会の議案を上程したときに、「良い取り組みだと思っから対外も対象とした例会にするべきでは？」という意見をいただきました。その時の私は、「メンバーのため」の育成をしなければいけないという思いでこの意見を突っぱねます。いざ、例会が始まるとメンバーの中には涙を流す方もいました。

「良い例会に参加できて良かった」という言葉もいただきました。

しかし、これはただ良い例会をただけに終わったことに気づきます。

協力いただいた講師の方は間違いなく素晴らしく、その時設営してくれたメンバーや参加していただいたメンバーには感謝をしています。私自身のメンバーへの思いも嘘ではありません。

しかし、私の力不足で私は小さくまとまって、失敗をしないようにと事業を作り上げました。私は青年会議所の存在意義である希望をもたらす変革の起点になること、持続可能な地域をつくる機会をつくることから逃げたのです。

江津青年会議所は、失敗して良い組織です。馴れることなく、町や大切な人のためになることが何なのかを話し、行動して、失敗や成功という経験を重ねることができる組織です。

江津市を舞台に、たくさん挑戦し、実践を重ねた先に自分が思い描くリーダーになれると私は信じています。その先に、明るく豊かな社会は必ず実現します。